学校番号	１２０３

令和３年度　音楽科

教科	音楽科	科目	ソルフェージュ	単位数	２単位	年次	２、３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「楽譜を読む」「正しいリズムで演奏する」「正しい音程で歌う」「ピアノ（キーボード）で両手の平易な伴奏を弾く」ことを目標に、1年間を通じて学習します。
・学習の到達度は、授業中の個別指導をとおして評価します。
・ソルフェージュの学習により、知らない曲でも、楽譜を読みピアノで弾いてみることにより曲の理解ができるようになります。また、そこから音楽への興味・関心が広がることを願っています。

2　学習の到達目標

・音楽の読譜やリズム・音程といった基礎を理解することにより、初見で演奏していく力をつける。
・保育・幼児教育系の進路を目指す生徒に必要とされるピアノ（キーボード）の基本的な奏法を身に付け、平易な曲の伴奏や弾き語りをする力をつける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意・工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	読譜・リズム奏・音程視唱・ピアノ演奏の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。	既習の学習をもとに、リズム・音程視唱・ピアノ奏の１つ１つの課題が正しく演奏されている。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 個別指導	観察 個別指導	観察 個別指導	観察 個別指導

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	読譜・リズム奏・音程視唱・ピアノ奏	【読譜・リズム】 ・よく使われる音符・休符の長さとそれを組み合わせたリズム ・拍子記号 ・変化記号 ・タイとスラー ・シンコペーション 【音程(視唱)】 ・ハ長音階 ・4 度音程までの視唱 【ピアノ奏】 ・鍵盤の位置 ・片手奏 ・両手奏	○		○	○	a:主体的に取り組んでいる。 c:（読譜・リズム） 記号の意味を理解している。 拍子記号に合わせて、拍を数えられる。拍を数えながら、楽曲のリズムを演奏できる。 （音程・視唱） ハ長音階を正しい音程で歌える。音階音を意識しながら、2 度・3 度・4 度の音程をとることができる。拍を取りながら、歌唱できる。 （ピアノ奏） 右手で演奏できる。 左手で演奏できる。 両手で演奏できる。 弾き語りができる。 d:音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感受しながら、よさや美しさを味わって聴いている。	観察 個別指導

後期	読譜・リズム奏・音程視唱・ピアノ奏	【読譜・リズム】 ・付点音符 ・16 分音符と休符の組み合わせ ・三連符 ・8 分の 6 拍子 ・コードとコードネーム ・音部記号 ・いろいろな伴奏形 【音程(視唱)】 ・5 度音程 【ピアノ奏】 ・両手奏 ・弾き歌い ・いろいろな伴奏	○	○	○		a:主体的に取り組んでいる。 b：メロディの持つ様々な要素を理解し、その音楽にあった伴奏（コードや伴奏形）を作る。 c:（読譜・リズム） 記号の意味を理解している。 拍子記号に合わせて、拍を数えられる。拍を数えながら、楽曲のリズムを演奏できる。コードネームを見て和音を作る。メロディに合わせた伴奏を自分で作る。 （音程・視唱） ハ長音階を意識しながら、5 度の音程をとることができる。 拍を取りながら、歌唱できる。 （ピアノ奏） 右手で演奏できる。 左手で演奏できる。 両手で演奏できる。 弾き語りができる。	観察 個別指導

※　表中の観点について　a: 音楽への関心・意欲・態度　　b:音楽表現の創意・工夫
c:音楽表現の技能　　d:鑑賞の能力